

# 高校生の活躍



## 先輩の活躍を刺激に

山口県立岩国工業高等学校 教諭 宮崎 大輔

令和6年度はパリ五輪へ卒業生が3名出場しました。フェンシングの加納虹輝選手が、東京五輪の団体金メダルに続き、エペ個人で金メダル、

団体で銀メダルに輝き、母校に凱旋報告してくれました。ハンドボールの徳田新之介選手と岡本大亮選手も出場し、熱戦を繰り広げ、惜しくも



パリ五輪フェンシング 個人エペ 金 団体 銀 加納虹輝選手



パリ五輪 出場 ハンドボール 徳田選手 岡本選手

予選通過等はなりませんでしたが、日の丸を背負った戦いの報告をされました。こうした先輩の活躍に、現役の生徒たちのみならず、卒業生、PTAや地域の方々と共に感激をいただいたところでは、こういう先輩方の活躍に勇気もらい、現役の生徒たちも日々の活動を充実させています。

科学研修部は、全国高等学校ロボット競技大会栃木大会に出場しました。24回連続の出場でしたが、入賞は来年度に持ち越しです。また、科学研修部の電気科3年の吉原楽人君が、高校生ものづくりコンテスト全国大会旋盤作業部門において、全国大会を制覇し、日本一となり、経済産業大臣賞を受賞しました。

フェンシング部の古賀万結さんはインターハイで3位、国民スポーツ大会で少年女子団体7位と活躍してくれています。ハンドボール部も令和5年の全国高校総体3位、全国選抜大会出場に負けない結果を求めて、日々汗を流しています。

また、今年度本校は創立85周年を迎えました。その記念事業として、卒業生の講演会と戦没学徒の慰霊碑を改築し、慰霊祭を行いました。生徒会を中心に企画し、学校運営協議会の委員の方にもご出席いただき開催いたしました。現在の生徒たちは、平和で、不自由なく生活できています。当時の状況等に思いをはせ、今の我々ができること、しなければならぬことを考える良い機会となりました。



岩国市長へ優勝報告



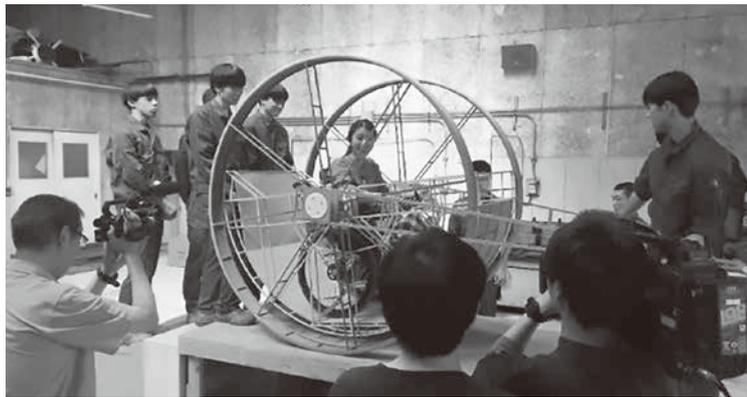
高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門で全国優勝を果たした 科学研修部 電気科3年 吉原楽人

この日は卒業生の元K-1の選手、トレーナーで武尊を育てた渡辺雅和氏に「最後は気合」の演題でご講演をいただきました。

「自分に対して、100%の気持ちで向かってくる人には110%の気持ちで返している。」「気合とは、怖い!と思ったときに、さらに3歩前に進む勇気のことです。」と語りました。卒業生の熱い思いに、生徒たちはまた、それぞれの目標に向かって勇気をもって歩みだしてくれるものと思います。

今年度は生徒が学校をよく宣伝してくれました。KRYラジオのMONOMONOものづくり工業高校生inやまぐちに機械科と電気科の2年生が出演しました。また、TYSの番組mixの学校チャンネル工業高校編に取り上げていただきました。木村那津美アナウンサーに生徒会長やフェンシング部・科学研修部などの多くの部活動とその取組を紹介していただき、学校の状況をお伝えすることができました。どちらの番組もアーカイブで見ることが可能です。特に「車椅子で錦帯橋を渡ろうプロジェクト」については反響が大きかったです。是非、生徒たちが長年取り組んできた成果が実現できることを願っています。

これからも卒業生の活躍に、夢を追いかけ、現役生徒たちが希望進路の実現に向けて、力、勢い、探究心を育てる学校を目指していきます。



tys mix 学校CH 工業高校編 木村那津美アナウンサーと車椅子で錦帯橋を渡ろうプロジェクト



85周年記念 戦没学徒慰霊祭

## 小さくてもキラリと全員が輝ける場所

山口県立岩国高等学校広瀬分校 教諭 村上 聖仁

本校は昭和16年広瀬農林学校として開校し、広瀬高等学校と名称を変え歴史を刻んできました。平成20年には岩国高等学校の分校、広瀬分校となりました。そして今春、その長い歴史が終りを迎えようとしています。閉校までの1年間の歩みを紹介します。

令和4年5月末、現在の3年生12名が入学して二ヶ月が経とうとしていたとき、当時の校長から来年度以降の募集停止が告げられました。「中学校の後輩が来たいと言っていたのに:。」「今年は、入学者数が例年と比べて、自分たちは多いから大丈夫だと思っていた。」という声が挙がりました。実感が湧かない生徒もいました。ある生徒は、「正直、驚いた。でもこの12人で頑張っていきたい。」と前を向いていました。この募集停止が決まってから、一年半が経ち、ついに最後の1年を迎えました。

最後の1年は生徒12人、常勤教員6人の計18人でのスタートとなりました。私自身、閉校の年であるからといって大きく変える必要はないと考えていました。その一方でここまで学校を支えてくれた保護者、地域の皆様に何か学校として出来ることはないだろうかと感じるようになりました。伝統行事である「茶摘み」には地元の園児、児童をはじめ多くの方に参加していただ

き、茶葉の収穫量はここ数年で最大となりました。

文化祭では、生徒は体育館でのステージ企画、バザーや出店など一人で三役も四役もこなさなければなりません。はじめは最後までやり遂げられないのではないかと心配になりましたが、最後の文化祭にける生徒の思いは強く、12人全員が持てる力を發揮し大変記憶に残る文化祭となりました。また、PTAや地域の商工会や商店に食品バザーを出店していただき、学校、保護者、地域が一体となった文化祭になりました。

体育祭では、これまでは生徒を赤白の2つの隊に分けて実施していましたが、人数との兼ね合いもあり、生徒と参加者(保護者や卒業生、地域の皆様)が競技を通じて交流する形にしました。「戮力(りきりく)協力(きょうりょく)心(こころ)全員(みな)で協力(きょうりょく)する(しよ)という意(い)」のスローガンを掲げ、全18種目で交流し、生徒が勝ち越し、優勝旗を手にする事が出来ました。ここでも、ほとんどの生徒が10種目以上の競技に参加することになり、成長につながりました。またクラスの団結が強くなりました。

校内マラソン大会では、「One for All All for One」のスローガンの下、全員の走行距離で100kmを目指す取組をしました。走る事が苦手な生徒

が多い学校で無謀な挑戦かと思われましたが、それぞれが全力で取り組み、目標の100kmを大きく超える152kmを走破することが出来ました。1か月前から練習を始め、全員が走力を高めるとともに精神的にも強くなりました。またこれまで応援していただいた地域に広瀬分校が全力で取り組み姿を見せることが出来ました。走った後は保護者の皆さんから炊き出しの豚汁をいただき、全員で温かい時間を過ごすことも出来ました。

10月には同窓会を中心に「閉校イベント」を開きました。当日は卒業生、地域の方々を中心に約600人が来場され、学校への愛情や愛着を感じました。

普段の講演会等での生徒謝辞は全員が最低でも1回は経験します。また、いろいろな行事を通じて、大人数の前で発表することも少なくありません。人数が少なくても輝ける「小さくてもキラリ」というキャッチコピーのもと様々な教育活動に取り組んできました。生徒はこの「小さくてもキラリ」を体現してくれました。行事だけでなく日頃の生活から一人でも何役もこなさなければならぬことが当たり前の中で、きついこともあったと思います。そんな生徒の姿を見て、私自身もやらなければならぬという気持ちになり、多くのことを学ばせてもらいました。学校自体は無くなってしまいませんが、学校で学んだことは無くなりません。これまで少人数で当たり前だった

たことはこれからの生活では当たり前ではないかもしれませんが。これまで以上に困難なこともあります。それでもこの学校で経験したことを活かして乗り越えて欲しいと思います。

最後になりましたが、これまで広瀬分校の教育を支えてくださった保護者の皆様、同窓会の皆様、岩国市錦町の皆様、心より感謝申し上げます。広瀬分校最後の卒業生12名のますますの「成長」とこれからの錦町の「発展」を願っています。



4月 18人でのスタート

たことはこれからの生活では当たり前ではないかもしれませんが。これまで以上に困難なこともあります。それでもこの学校で経験したことを活かして乗り越えて欲しいと思います。

最後になりましたが、これまで広瀬分校の教育を支えてくださった保護者の皆様、同窓会の皆様、岩国市錦町の皆様、心より感謝申し上げます。広瀬分校最後の卒業生12名のますますの「成長」とこれからの錦町の「発展」を願っています。



6月広校祭 一人何役もこなしました



5月茶摘み 過去最大の収穫量



11月マラソン大会 スタート



9月体育祭 全員で心をつにしました